

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名: 埼玉医科大学病院・連携施設 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名: 松尾 幸治

住 所: 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38 番地

電話番号: 049 -276 -1214

FAX: 049 -276 -1622

E-mail: kmatsuo@saitama-med.ac.jp

■ 専攻医の募集人数: (10) 人

■ 応募方法

履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先: 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38 番地

埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科医局

電話: 049-276-1214

FAX: 049-276-1622

担当者: 松岡孝裕(医局長)

■ 採用判定方法:

診療部長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念(全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命(全プログラム共通項目)

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心で

きる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

本研修プログラムの特徴は、基幹施設を中心として、我が国の実地臨床で遭遇するケースを網羅的にバランスよく体験できることである。その網羅性は、広さと深さを両立している。

本研修プログラムを構成するのは、基幹施設と 15 の連携施設から成る施設群である。基幹施設である埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科は現在、78 床、2 病棟であり、大学病院としての規模は大きい。病棟の1つは、大学病院としては稀な精神科救急医療を中心的に担う高規格の精神科専門病棟(精神科救急入院料病棟、いわゆるスーパー救急)を有している。

症例の網羅性、広さ、深さを支えている要因として、規模以外に、当院の地理的・社会的位置が挙げられる。精神疾患においてはスーパー救急といった超急性期の精神疾患を診療し、さらにこうした患者の中等症から重症の身体疾患を管理することが出来る施設は、県内では当科のみで、県内精神科医療の最後の砦とならざるを得ない。我々はこの状況を自覚し、受動的な姿勢ではなく、「来る者拒まず」、「最後はうちが支える」という能動的な気概をもって、日夜奮闘している。若手医師も含めこうした姿勢を常に持っていることこそが、当科における診療の広さ、そして表面的に流されぬ深さに繋がっている。きめ細かい診療が求められる児童思春期専門外来、大学病院精神科では稀なてんかん専門外来も精力的に行っているのも、こうした姿勢に由来するものである。こうした診療体制を敷いていることから、埼玉県内の精神科医療救急医療体制において、身体合併症のある精神疾患患者の常時(24 時間 356 日)対応施設として県内唯一の指定を受けており、県内全体の精神科医療を下支えしかるリーダーシップをとっている。

このような背景もあり、当科には軽症から最重症、一般から特殊、子供から高齢者まで、ありとあらゆる症例の診療を行っている。診断・治療がハードな症例のみならず、ソフトな症例も診療していることから、将来クリニック開業を予定している医師にとって必要な十分な研修も行うことができる。

本プログラムの連携施設は多彩である。埼玉医科大学総合医療センター(川越市)では、コンサルテーション・リエゾンや一般外来を主体とした幅広い外来中心の診療が体験できる。埼玉医科大学国際医療センター(日高市)では、精神腫瘍科において癌患者およびその家族の精神的ケアという貴重な体験をすることができ、自殺企図症例等を主体とした三次救急症例を経験できる。当院と同じ敷地内にある丸木記念福祉メディカルセンターでは、慢性期の精神障害、認知症疾患医療センター、重症心身障害、などの診療が体験できる。県立精神医療センターでは、医療観察法病棟を有し、特殊な症例の経験、薬物依存の専門外来など、大学病院では学びがたい症例を経験することが出来る。また、草の根的に地域精神医

療を担っている精神科病院も、設立者の哲学に応じた特色を有しており、診療に携わることで学ぶところは大きい。社会福祉法人シナプス埼玉精神神経センターは、県内東側のスーパー救急の一翼を担っており、また認知症等の神経疾患が経験できる。

このように豊富な研修資源を生かすには適切な研修体制が欠かせない。診療の基本は人から人に伝えるべきものである。あくまでも症例を主体とし、そこに集約する形で、指導医の直接指導、チームカンファレンス・回診等による討論、文献指導等を行う。そして種々の勉強会や学会発表による肉付けも加え、実りある研修体制を構築する。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 68 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	1574	857
F1	264	74
F2	6990	2472
F3	5083	599
F4 F50	5082	208
F4 F7 F8 F9 F50	2399	160
F6	177	24
その他	1724	182

2. 連携施設名と各施設の特徴

A. 研修基幹施設

- 施設名: 埼玉医科大学病院
- 施設形態: 私立大学附属病院
- 院長名: 篠塚 望
- プログラム統括責任者氏名: 松尾 幸治
- 指導責任者氏名: 松尾 幸治
- 指導医人数: (7) 人
- 精神科病床数: (78) 床

- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	242	49
F1	39	13
F2	1077	105
F3	635	43
F4 F50	1608	45
F4 F7 F8 F9 F50	383	14
F6	30	3
その他	372	3

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

基幹施設である埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科は、精神科救急入院料算定病棟(「スーパー救急」と精神科急性期医師配置加算算定病棟をともに有する大学病院としては稀少な存在である。また、埼玉県精神科救急医療事業においても、精神身体合併症の常時対応施設としても唯一の指定を受けている施設である。当科は、こうした埼玉県の精神科救急における「最後の砦」として積極的に関わっており、このことが診療の幅を広げ、質を高めることにつながり、その結果高度な臨床スキルを身につけることが出来る。当科には、軽症から最重症、一般から特殊、子供から老人まで、あらゆる症例を入院及び外来で経験することが出来る。

1)一般精神科診療:地域のクリニックや精神科病院で経験するような中核的疾患(統合失調症圏、うつ病・双極性障害圏、神経症性障害圏、認知症疾患等)の診療

2)総合病院特有の診療:器質性・症状性精神障害、精神身体合併症、摂食障害、コンサルテーション・リエゾン、身体管理を要する自殺企図症例への対応、修正型電気けいれん療法等)

3)精神科 3 次救急受入施設特有の診療:措置(身体合併症を伴う措置)、緊急措置、応急入院等

4)大学病院特有の専門診療:気分障害専門外来、児童青年期・神経発達症専門外来、てんかん専門外来および特殊入院(ビデオ脳波検査等)、統合失調症のクロザピン治療、医療観察法鑑定入院等

B. 研修連携施設

①施設名:岸病院

- 施設形態:私立(医療法人)単科精神科病院
- 院長名:吉澤 佳子
- 指導責任者氏名:立石 香織
- 指導医人数:(2)人
- 精神科病床数:(95)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	48	6
F1	22	4
F2	720	125
F3	666	77
F4 F50	579	28
F4 F7 F8 F9 F50	32	3
F6	39	5
その他	21	0

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は 95 床の小規模精神科病院で、専門病棟を有しないが基本的には急性期治療を中心とした入院精神科医療全般を学ぶことが出来る。対象も青年期から老年期、身体合併症など多岐に及び、その中には認知症や摂食障害、物質依存、症状精神病なども含んでいる。駅から徒歩3分と通院に便利なため、外来数は1日平均約 80 名弱と多く、統合失調症や気分障害以外、神経症圏の患者も豊富に経験することが出来る。デイケアや訪問看護で積極的に退院支援や地域連携活動を行い、地域社会と密接した小規模だからこそできる、患者一人一人に対してきめの細かい精神医療の提供を心掛けている。一人の患者の長期(外来から入院、そして退院後の外来や地域連携まで)間の経過を経験することで責任を持って対応するための能力を身に付けることができると考える。

②施設名:埼玉医科大学国際医療センター

- 施設形態:私立医科大学附属病院
- 院長名:佐伯 俊昭
- 指導責任者氏名:大西 秀樹
- 指導医人数:(1)人
- 精神科病床数:(0)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	5	77
F1	3	0
F2	9	8
F3	37	18
F4 F50	97	30
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	4	0
その他	24	21

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)
 - がん、心臓病、脳卒中、救命救急センターからなる総合病院である。
 - サイコオンコロジーおよび精神科リエゾンに関し高度な診療を多数経験できる。
 - がん患者およびがん患者遺族を対象とした集団精神療法も行っている。
 - 患者以外に、がん患者家族および遺族向けの外来も開設している。
 - 緩和ケアチームでも活動を行っており、緩和医療をトータルに学ぶことができる。
 - 心臓移植施設でもあり、移植待ちおよび移植後患者の精神的な問題も扱っている。
 - 臨床心理士も教官として在籍しており、心理面の対応も充実している。

③施設名:埼玉医科大学総合医療センター

- 施設形態:私立医科大学付属病院
- 院長名:堤 晴彦
- 指導責任者氏名:倉持 泉
- 指導医人数:(5)人
- 精神科病床数:(0)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	33	0
F1	5	0
F2	51	0
F3	133	0
F4 F50	236	0
F4 F7 F8 F9 F50	46	0
F6	9	0
その他	0	0

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

埼玉医科大学総合医療センターは埼玉県川越市にある。埼玉医科大学の大学病院のうちの1つである。高度救命救急センターと総合周産期母子医療センターを含めて 984 の病床を有する地域の中核病院である。精神科病棟はないので、リエゾン診療と外来診療が研修の中心になる。リエゾン症例としては、高度救命救急センターから自殺企図後の精神疾患、総合周産期母子医療センターから産後うつ病などを多く経験することができる。外来には、神経症圏内または気分障害圏内の患者が多く、認知行動療法、EMDR(眼球運動による脱感作と再処理)、対人関係療法を積極的に行っている。虐待防止にも力を入れており、解離性障害の専門外来がある。自閉症スペクトラム障害や注意欠陥多動性障害(ADHD)など発達障害圏の患者も多く受診する。平成 28 年 4 月現在、医師は 8 名おり、そのうち 3 名が精神科専門医・指導医を取得している。リエゾン診療は、臨床心理士 2 名、精神看護専門看護師 1 名、精神保健福祉士 1 名(予定)と精神科リエゾンチームを組んで行っており、医師以外の職種からも幅広い視点を学ぶことができる。ベッドサイドラーニング(BSL)やクリニカルクラークシップ(CC)などの学生指導や臨床研究に参加することも希望に応じて可能である。

★一緒に勉強しながら、長期にわたって助け合える仲間を作りましょう。★

④施設名:埼玉県立精神医療センター

- 施設形態:公立単科精神科病院
- 院長名:長尾 眞理子
- 指導責任者氏名:長尾 眞理子
- 指導医人数:(8)人
- 精神科病床数:(183)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	11	11
F1	457	236
F2	166	202
F3	71	49
F4 F50	40	2
F4 F7 F8 F9 F50	297	85
F6	11	10
その他	21	13

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

埼玉県立精神医療センターは、県内唯一の公立精神科であり、県内の精神科医療の中核を担い、高度先進医療を行っている。

病棟は全て閉鎖であり、スーパー救急病棟2病棟(30床・50床)、依存症病棟(40床)、児童思春期病棟(30床)、医療観察法病棟(33床)の計183床で、外来は一般精神科外来から専門外来まで幅広く行っている。併せて、依存症治療研究部も設置している。

疾患としては特に、精神作用物質使用による精神および行動の障害(F1)、統合失調症(F2)、心理的発達障害(F8)、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害(F9)が症例豊富である。急性期を中心に、重度かつ慢性の精神疾患患者、様々な理由により地域での治療が困難な症例、児童から高齢者、措置入院から任意入院・医療観察法、地域医療から高度専門医療まで、精神科医療全般について経験できる。

多職種チーム医療が基本であり、入院初期から退院後の生活を見据えた濃厚な対応(多職種による評価・検討、地域関係機関との連携等)を行い、早期の社会復帰を目指している。また、修正型電気けいれん療法、クロザピン、結核患者収容モデル事業による結核患者の治療、訪問看護も行っている。

スーパー救急病棟は、埼玉県精神科救急情報センターと密接な連携を取りながら夜間休日を中心に措置入院等を受け入れ、また地域の医療機関では処遇困難な患者の診療も行っている。

依存症病棟は、アルコール依存症のみならず薬物依存症の治療を行っている、本邦でも数少ない病棟である。外来・依存症治療研究部と連携し、治療の動機付け・集団プログラム・疾病教育等、断酒断薬の継続のために様々なアプローチを行っている。依存症外来では、当院独自の、認知行動療法に基づいた薬物再乱用防止プログラム「LIFE(ライフ)」を行っており、その成果等を全国に発信している。

児童思春期病棟は県内唯一の病棟であり、院内学級も併設されている。外来も含め、教育・福祉等の各機関と連携を取りながら、個別指導・集団療法等をチームで行っている。

教育研究面では、倫理・安全管理・感染対策等の院内研修が充実しており、医師としての基本的診察能力(コアコンピテンシー)を高めることができる。また、依存症治療研究部長による「教育・研究入門講座」を適宜開催しており、リサーチマインドの涵養や、学会発表・論文作成等の指導にも力を入れている。

当センターは日頃より院内の連携が良好で、研修プログラムも充実しているため、専門分野に特化した研修・当院全体を網羅した組織横断的な研修等、専攻医のニーズに合わせた研修を行うことが可能である。

⑤施設名:社会福祉法人シナプス 埼玉精神神経センター

- 施設形態: 私立(医療法人)単科精神科病院
- 院長名:丸木 雄一
- 指導責任者氏名:山下 博栄
- 指導医人数:(5)人
- 精神科病床数:(243)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	28	9
F1	7	4
F2	275	364
F3	266	110
F4 F50	160	16
F4 F7 F8 F9 F50	211	44
F6	2	3
その他	184	92

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院には精神科、神経内科、リハビリテーション科、口腔外科と4科があり、各科が連携して治療にあたっている。精神科には精神科救急病棟、急性期病棟(一般精神科病棟と認知症病棟)、療養型病棟、身体ケア病棟(合併症病棟)がある。精神科救急病棟があるので24時間体制で外来診察している。このため時間外診察も多く、救急対応の勉強が可能である。また措置入院、思春期症例、認知症、脳器質疾患などほとんどあらゆる症例を経験することが可能で、精神保健指定医取得のための症例数は期間中に十分満たすことが出来る。入院患者の多くは1~2ヶ月で退院し、外来治療へと移行するので、研修期間中にかなりの数の外来患者を受け持つことになる。当院は認知症疾患治療センターの指定を受けており、認知症の治療に力を入れている。また医療観察法(心神喪失などの状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察に関する法律)の鑑定入院を受け入れるだけでなく、指定通院医療機関でもある。尚、関連病院である埼玉医科大学総合医療センター・メンタルクリニックでコンサルテーション・リエゾンを学ぶことも可能である。

⑥施設名:医療法人碧水会汐ヶ崎病院

- 施設形態:私立(医療法人)単科精神科病院
- 院長名:高沢 彰
- 指導責任者氏名:高沢 彰
- 指導医人数:(3)人
- 精神科病床数:(208)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	50	15
F1	25	5
F2	250	200
F3	200	25
F4 F50	170	10
F4 F7 F8 F9 F50	60	4
F6	15	2
その他	0	0

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)
 - 思春期・成人期の発達障害を比較的多く扱っていること、
 - 発達障害・ひきこもりなどを中心とした家族教室の開催
 - 知的障害や統合失調症などを併存するてんかん症例の対応
 - 小・中・高・特別支援校の養護教諭との定期的な事例検討会を開催

⑦施設名:松風荘病院

- 施設形態:私立単科精神科病院
- 院長名:山野 茂
- 指導責任者氏名:山野 茂
- 指導医人数:(4)人
- 精神科病床数:(210)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	19	4
F1	25	9
F2	291	211
F3	210	27
F4 F50	157	1
F4 F7 F8 F9 F50	3	1
F6	2	0
その他	0	0

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は、210 床(精神一般 90,精神療養 120)を有する精神科病院である。開院以来約 60 年間、埼玉県西部地区の中核的病院として精神医療を担っている。

外来や入院診療では主として成年や老年者を対象とし、感情障害、統合失調症、神経症圏内の症例が多い。埼玉県救急情報センターや地元の消防・警察署と連携して、措置入院や精神科救急患者を積極的に受け入れて治療を行っている。

また担当医師が、保健所,市役所福祉課職員,訪問看護スタッフらと連絡を取り合ってケースワーキングを行っており、地域に密着した精神医療を経験することが出来る。

⑧施設名:つむぎ診療所

- 施設形態:私立(医療法人)単科精神科クリニック
- 院長名:吉川 信一郎
- 指導責任者氏名:内田 里華
- 指導医人数:(2)人
- 精神科病床数:(0)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	163	54
F1	30	7
F2	490	92
F3	377	44
F4 F50	401	15
F4 F7 F8 F9 F50	536	22
F6	14	0
その他	240	0

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

秩父医療圏の中で唯一の精神科医療機関であるため、通院患者の年齢幅は広く、精神疾患全般の診療を行っている。

外来では統合失調症、気分障害、神経症性障害やストレス関連障害の患者の受診が多い。県から認知症疾患医療センターの指定を受けているため、他医療機関からの紹介で認知症疾患の受診も多い。最近では児童思春期精神障害の外来患者も増加している。また地域の他医療機関と連携して入院に至るケースを減らす試みとして、リエゾンサービス(電話相談)を行い、他院への往診の依頼にも極力応じている。多職種での訪問看護に力を入れており、精神障害者の地域での生活をサポートしている。

自立支援施設・グループホームを運営しているため、地域への移行を踏まえたリハビリを行っている。認知症疾患治療病棟では認知症患者の行動心理症状の薬物療法やリハビリテーションを行っている。

クリニック全体で精神障害者の地域生活を支える取り組みを行っており、精神疾患全般の治療に加えアウトリーチに関する研修が提供できる。

併設施設等:精神科作業療法、精神科デイケア、精神科ショートケア、認知症疾患医療センター、居宅介護事業所、介護老人保健施設、通所リハビリテーション、短期入所、宿泊型自立

訓練、自立訓練(生活訓練)、就労移行支援、共同生活援助、地域活動支援センター、精神科
訪問看護

⑨施設名：東京都立松沢病院

- 施設形態:公的病院
- 院長名:水野 雅文
- 指導責任者氏名:正木 秀和
- 指導医人数:(21)人
- 精神科病床数:(800)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	852	509
F1	949	424
F2	3387	1503
F3	1376	444
F4 F50	1030	196
F4 F7 F8 F9 F50	1696	457
F6	248	81
その他	599	257

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は東京都世田谷区に位置し、東京都の行政精神科医療等で中核的な役割を担っている精神科病院である。800 床の精神科病床を有し、精神科医が約 40 名在籍している。内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科の身体合併症入院病床も有し、身体科の医師は約 25 名在籍する。精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療、医療観察法病棟の他、デイケア、精神科作業療法等を行っている。精神科領域のほとんどの疾患を経験することができ、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を扱っている。

⑩施設名:西熊谷病院

- 施設形態:私立(医療法人)単科精神科病院
- 院長名:林 文明
- 指導責任者氏名:渡邊 貴文
- 指導医人数:(11)人
- 精神科病床数:(528)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	558	237
F1	60	24
F2	1087	504
F3	961	139
F4 F50	731	27
F4 F7 F8 F9 F50	94	21
F6	23	6
その他	323	51

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

48床の精神科救急病棟を含め528床の病床を有し、平成25年4月に公益財団法人に認定されている単科精神科病院である。地域精神医療に積極的に取り組んでいる。

認知症の周辺症状による入院症例、措置入院、医療保護入院などの非自発入院や行動制限を必要とする症例も多くあり、非常勤医による思春期外来、常勤の臨床心理士によるカウンセリング、心理検査を実施しており、各種心理検査について臨床心理士の指導を受けることもできる。

修正型電気けいれん療法を平成27年2月から開始し、週2回のペースで、自院・他の精神科病院からの依頼を受けている。

併設施設など:応急指定病院 認知症疾患治療病棟 認知症疾患医療センター 精神科作業療法 精神科デイケア 認知症デイケア 訪問看護 精神科救急輪番

⑪施設名：東松山病院

- 施設形態：私立（医療法人）単科精神科病院
- 院長名：田巻 龍生
- 指導責任者氏名：中井 謙
- 指導医人数：（ 3 ）人
- 精神科病床数：（ 422 ）床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	90	44
F1	11	2
F2	475	70
F3	315	22
F4 F50	252	5
F4 F7 F8 F9 F50	6	5
F6	5	0
その他	535	15

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は埼玉県のほぼ中央、東松山市（人口約 9 万）の外れにある昭和 36 年開設の 400 床規模の緑豊かな環境の単科の精神病院である。

入院は、急性期から慢性期、認知症治療病棟、開放病棟と複数の機能の病棟がある。外来は院外処方、訪問看護、デイケア、地域生活支援センター、生活訓練施設（旧援護寮）、複数のグループホームを有している。

また、関係法人の特別養護老人ホームも隣接し、他、この地域の特徴で更生施設が多く、知的障害専門外来・てんかんの診療にも力を入れている。

医局は複数の大学病院との関連があり、精神保健指定医を取得に来る研修病院としての実績がある。

現在は常勤医 8 名、精神科非常勤 16 名、内科非常勤 3 名、外科非常勤 1 名、整形外科非常勤 1 名、皮膚科非常勤 1 名、心理担当者数名（平成 28 年 3 月現在）の構成となっている。

⑫施設名：福岡大学病院

- 施設形態：私立大学病院
- 院長名： 岩崎 昭憲
- プログラム統括責任者氏名：川寄 弘詔
- 指導責任者氏名：川寄 弘詔
- 指導医数：（ 7 ）人
- 精神科病床数：（ 60 ）床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3260	1198
F1	931	522
F2	7256	3878
F3	9302	1981
F4 F50	5219	467
F4 F7 F8 F9 F50	7798	451
F6	424	91
その他	1405	213

【研修の特色】

福岡大学病院は915床（うち精神科60床）を有する特定機能病院であり、「あたたかい医療」という基本理念を掲げ、救命救急センターでの3次救急の受け入れや地域のがん診療連携拠点病院としてがん診療など、地域の中核病院として社会のニーズに応えるよう医療活動を行っている。

当教室は伝統的に精神分析的精神療法などの精神療法を学ぶ環境が充実しており、地域精神医療に根ざした患者中心の臨床精神医療を徹底している。また大学病院における精神神経科の役割を果たすために、身体合併症患者のリエゾンコンサルテーション、緩和ケアチームや認知症疾患医療センターへの参画、救命救急センターと協力した自殺企図者への介入、産婦人科や小児科と協同した周産期母子、小児や児童思春期（虐待児とその家族、発達障害、ADHD など）への対応といった幅広い治療活動も行っている。

【研修の内容】

福岡大学病院では生物 - 心理 - 社会的な幅広い知識とバランスの取れた技能や態度を獲得し、精神科専門医の資格を取得することを目標とする。

専攻医は病棟医として入院患者を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画の策定、他科と協力関係の作り方などを、指導医から教育を受ける。病棟ではチーム制での診療を行っており、配属されたチーム内で複数の指導医よりアドバイスを受けることが可能である。また当施設のデイケアは全国で初めて認可された大学病院デイケアであり、コメディカルスタッフも多く、多職種でのチーム医療を実践している。デイケアでは統合失調症や発達障害などを中心とした社会復帰プログラムを行っている。週に1回はデイケアプログラムにも参加し、退院後の経過といった継続的な医療について学ぶ機会も設けている。精神療法に関する研修、スーパービジョン（症例の治療に関する指導）なども希望者は受けられる。

当施設では大学という研究機関でもあるため、研究や学会発表についても指導を受けることが可能であり、病棟での上級医のほかに、臨床以外でも相談ができる病棟上級医以外の担当者をそれぞれの専攻医に配置している。（コンサルテーションシステム）学会等での発表や雑誌への投稿も定期的に行っており、その指導をコンサルテーションで受ける。希望者は大学院への進学も可能である。各々の興味のある臨床分野や研究分野があれば、より重点的にその領域に関わることが出来る。

⑬施設名：丸木記念福祉メディカルセンター

- ・ 施設形態：
- ・ 院長名：棚橋 紀夫
- ・ 指導責任者氏名：岡島 宏明
- ・ 指導医人数：(4)人
- ・ 精神科病床数：(446)床
- ・ 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	124	214
F1	2	0
F2	186	283
F3	44	13
F4 F50	39	11
F4 F7 F8 F9 F50	116	34
F6	3	0
その他	25	0

- ・ 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)
 - ・ (地域型)認知症疾患医療センターとして活動しており、認知症の患者数が多い。
 - ・ デイケア、援護寮など併設し、精神障害者の社会復帰に力を入れている。
 - ・ 埼玉医大病院などの後方病院として、亜急性期から慢性期の患者の治療に重点を置いている。
 - ・ 緩和ケア病棟が併設し、ターミナルケアの精神科領域も担当している。

⑭施設名:医療法人弘心会 武蔵の森病院

- 施設形態:私立(医療法人)単科精神科病院
- 院長名:鈴木 康一
- 指導責任者氏名:鈴木 康一
- 指導医人数:(2)人
- 精神科病床数:(180)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	141	105
F1	16	3
F2	247	101
F3	277	15
F4 F50	419	6
F4 F7 F8 F9 F50	16	0
F6	25	4
その他	0	0

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

飯能市には武蔵の森病院と南飯能病院の2つの単科精神科病院があるが、武蔵の森病院も設立 10 周年を越え、地域の医療に根ざして活動実績を上げてきている。精神療養病床 120 床、認知症治療病棟 60 床の構成で、統合失調症や感情障害圏だけでなく認知症も含めて広く体験・学習することができる。また狭山市と日高市にクリニックを擁し、訪問看護ステーションやグループホームも擁しているため、患者様の社会復帰や地域医療に関して学ぶことが可能である。研究面については、現在までに複数の製薬会社から計 9 例の統合失調症の治療薬の治験を請け負っており、そのうち 8 例は二重盲検については完遂しており、製薬業界からも成功率の高い施設として一定の評価を受けているため、治験の実際についても学ぶことも可能である。院長の岩瀬は 5 年前より飯能市就学支援委員会委員として学童期の発達障害等の診療に携わっており、この領域に関心を持つ専攻医にも研修の機会がある。さらに岩瀬は平成 28 年度より日高市の認知症サポート医に任命されたため、今後は認知症を学びたい専攻医にも益するところ大であると考えられる。

⑮施設名:山口病院

- 施設形態:私立(医療法人)単科精神科病院
- 院長名:山口 聖子
- 指導責任者氏名:奥平 智之
- 指導医人数:(3)人
- 精神科病床数:(309)床
- 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	53	25
F1	14	0
F2	1,020	321
F3	695	31
F4 F50	6	0
F4 F7 F8 F9 F50	823	12
F6	6	0
その他	0	0

- 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

【精神科医療の基本を修得】

統合失調症および気分障害をはじめとする精神病水準の重度障害に対する急性期の危機介入から社会復帰まで、医療と福祉の基本と実際を修得する。

【精神科デイケアの経験】

精神科デイケアで、SST(social skill training)、疾病教育、認知リハビリテーション、および就労支援などの臨床経験を積む。

【認知症の診断と治療法の習得】

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接のしかた、症候学、診断、治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。連携病院で開始する場合も、原則としてリエゾン精神医学が体験できるところを選択する。面接に関しては、模擬診察を行ったり専攻医面接に指導医が陪席したりして、面接技能の現状を専攻医自身にフィードバックしながら、症候評価技能を磨きかつ良好な治療関係を保つ訓練を行う。症候や検査所見から診断単位およびそれと鑑別すべき診断単位に至る方法論を学ぶ。精神療法の習得を目指し、まず支持的精神療法の基本を学び、さらに認知行動療法、精神分析・精神力動療法、集団療法、生活療法、危機介入等のレクチャー、カンファレンス、セミナーなどに適宜参加する。院内研究会や学会で発表・討論する。

2年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接のしかたを深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法や力動的な精神療法の基本的考え方と技法を身につける。当直や精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害、摂食障害、広汎性発達障害、および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。院内研究会や学会で症例報告等の発表・討論を行う。

3年目：指導医からさらに自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。支持的な精神療法、危機介入的面接、認知行動療法、力動的な精神療法などを上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を、実際に受け持って経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設や一部の連携施設(総合医療センター等)において他科の専攻医とともに研修会が実施される。先輩医師の指導のもと、当直・救急で精神科救急に従事したりコンサルテーション・リエゾンで身体科との連携を体験したりすることによって、医師としての矜持・責任感、社会性、倫理観などについて学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽・自己学習することが求められる。入院症例については、すべての担当症例を科内の症例検討会で発表し、症候学、診断学、薬物療法、等について討論を行い、助言を受ける。外来症例についても、一定の頻度で症例検討会のプレゼンターを務め、指導を受ける。その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を行う。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1)患者関係の構築、2)チーム医療の実践、3)安全管理、4)症例プレゼンテーション技術、5)医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動(学会発表、論文の執筆等)

基幹施設や一部の連携施設(総合医療センター等)において、臨床研究や基礎研究(特に臨床研究)に従事し、その成果を学会や論文で発表する。

⑤ 自己学習

①～④のいずれとも関わることであるが、医師としてやって行く上で重要なことは、学生時代と違い、受動的態度を捨て、自ら疑問を持ち、学びに行く姿勢を保つことである。この「受動的ー能動的」という軸の評価を積極的に行い、将来医師として自立してやって行く礎を築くよう、能動性の成長を促す。

4) ローテーションモデル

典型的には 1 年目に基幹病院をローテートし、病棟担当医、外来予診医、副当直医などを務めることにより、精神科医としての基本的な知識・技能を身につける。2～3 年目には総合病院精神科外来や単科精神科病院を原則として1年ずつローテートし、中核的・典型的な精神科症例の診療はもちろん、身体合併症、難治・急性期症例、児童思春期症例、認知症症例等を幅広く経験し、薬物療法や精神療法、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。なお、これら3年間のローテート順については、本人の希望や適性に応じて柔軟な対応が可能である。

さらに、今回示した連携施設以外に児童思春期専門外来(かわごえクリニックが主; 大学病院でも経験可能)や精神保健行政機関(県立精神医療センター)などの各専門機関との連携も予定しており、本人の希望に応じて、多彩な学習機会を得ることが可能である。

別紙1に主なローテーションパターンを示す。

5) 研修の週間・年間計画

別紙2に各施設の週間・年間スケジュールを示す。

4. プログラム管理体制について

プログラム管理委員会

委員長 医師: 松尾幸治

医師: 小田垣雄二

医師: 太田敏男

医師: 横山富士男

医師: 松岡孝裕

医師: 渡邊さつき

医師: 村田佳子

医師: 立石香織

医師: 大西秀樹

医師: 倉持 泉

医師: 長尾真理子

医師: 山下博栄

医師: 高沢 彰

医師: 山野 茂

医師: 内田里華

医師： 正木秀和
医師： 渡邊貴文
医師： 中井 謙
医師： 川寄弘詔
医師： 岡島宏明
医師： 戸塚貴雄
医師： 鈴木康一
医師： 奥平智之
看護師： 清水 勝
看護師： 目黒幸信
精神保健福祉士： 梅澤里美
精神保健福祉士： 沼尻将次
公認心理師： 庄野伸幸

- プログラム統括責任者
委員長 医師： 松尾幸治

- 連携施設における委員会組織
各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

埼玉医科大学病院： 松尾 幸治
岸病院： 立石 香織
埼玉医科大学国際医療センター： 大西 秀樹
埼玉医科大学総合医療センター： 倉持 泉
埼玉県立精神医療センター： 長尾 眞理子
埼玉精神神経センター： 山下 博栄
汐ヶ崎病院： 高沢 彰
松風荘病院： 山野 茂
つむぎ診療所： 内田 里華
都立松沢病院： 正木秀和

西熊谷病院： 渡邊 貴文

東松山病院： 中井 謙

福岡大学病院： 川崎 弘詔

丸木記念福祉メディカルセンター： 岡島 宏明

武蔵の森病院： 鈴木 康一

山口病院： 奥平 智之

2) 評価時期と評価方法

- 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- 1 年後に 1 年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

埼玉医科大学病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

-専攻医研修マニュアル(別紙)

-指導医マニュアル(別紙)

• 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

• 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

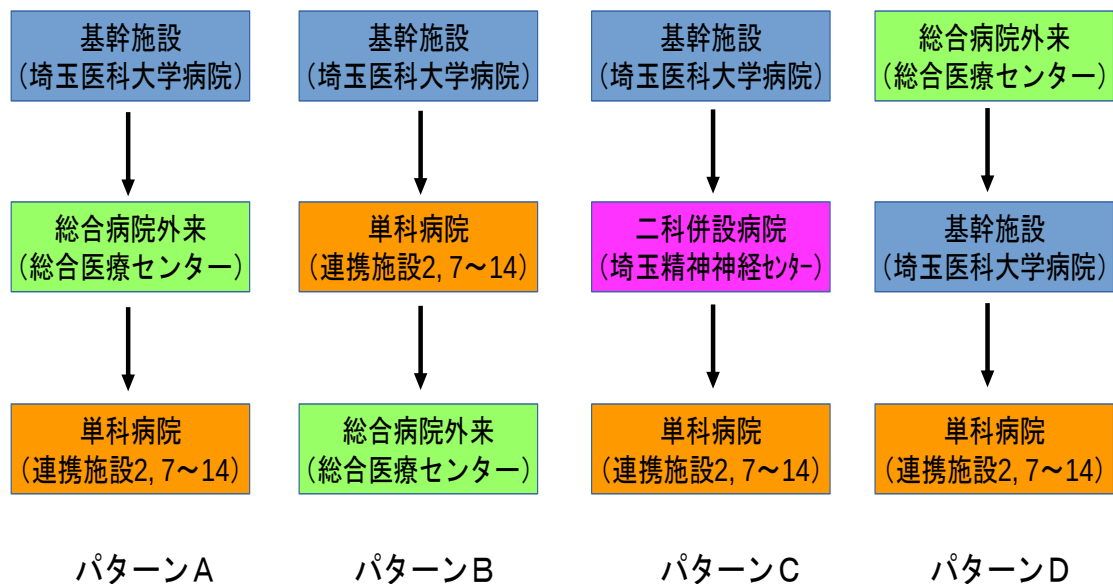
3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

別紙 1



上記はほんの一部であり、このほかにも個々の専攻生の希望や事情に応じて、さまざまなバリエーションを準備できる。例えば、基幹施設や総合医療センターに勤務しているとき、並行して特定の曜日にかわごえクリニックの児童思春期外来で研修を行うことも可能である。

別紙 2

A 研修基幹施設

- 施設名: 埼玉医科大学病院

- 週間スケジュール

.

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟研修 病棟回診 診療ミーティング	新入院 外来研修 救急研修	学 外 研 修 日	往診:コンサルテーション・リエゾン [救急科、他科病棟、国際医療センター] 救急研修	修正型電気けいれん療法 外来研修 病棟研修	病棟研修 外来研修 児童思春期外来
午後	病棟多職種ミーティング 診療科連絡会 新入院カンファレンス クリニカルカンファレンス 臨床研究部会	病棟研修 [病棟での身体合併症を含む] 精神医学クルズス		往診:コンサルテーション・リエゾン 病棟研修 往診ミーティング	外部施設研修 かわごえクリニック、丸木記念メディカルセンター　デイケア	(外来研修) (病棟研修)
夕		リサーチミーティング				
夜	～当直研修(副直)　週に1回程度～					

・ 年間スケジュール

・

	内容
4 月	初期ガイダンス等の実施 マンツーマンでの病棟担当医トレーニング開始 新患予診などの外来トレーニング開始 副当直で当局業務見習い開始
5 月	継続（半年後に主当直可能なレベルを目指す） ※埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科、埼玉医科大学総合医療センター神経精神科との合同勉強会
6 月	継続
7 月	※東京精神医学会 ※埼玉精神医学懇話会
8 月	継続
9 月	主当直開始（指定医当局医の指導のもと）
10 月	※埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科、埼玉医科大学総合医療センター神経精神科との合同勉強会
11 月	※東京精神医学会
12 月	
1 月	※埼玉精神医学懇話会
2 月	※埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科、埼玉医科大学総合医療センター神経精神科との合同勉強会
3 月	※東京精神医学会
その他	埼玉精神医学懇話会(年 2 回) 東京精神医学会(年 3 回)、埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科、埼玉医科大学総合医療センター神経精神科との合同勉強会(年 3 回) 可能な限り出席。少なくとも年1回は発表者として症例報告をする その他 日本精神神経学会総会、日本総合病院精神医学会、日本うつ病学会、日本統合失調症学会、日本てんかん学会、日本老年精神医学会等、積極的に参加及び発表を行う

B 研修連携施設

① 施設名:岸病院

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	外来陪 診	病棟業務	外来陪 診	デイケア業務	自己学習 日	外来陪診
午後	病棟業 務	病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業 務	病棟業務 症例検討・講 義		病棟業務 病棟回診
5 時以 降		医局会 抄読会				
	＊ 当直（ 月 2 回～4 回 ） 金曜日除く					

★ 年間スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	日本精神科医学会学術大会参加
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

＊ その他、病院協会や、診療所協会、医師会が開催する研修会に適宜参加する。

② 施設名:埼玉医科大学国際医療センター

★週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:30 -12:00	外来業務	外来業務	外来業務 第1 水曜 10:00-12:00 集団精神療法 (再発がん患者対象)	外来業務	外来業務	外来業務
13:00 -17:00	リエゾン	13:00-14:00 リエゾン 14:00-15:00 緩和ケアチームカンファレンス、回診 15:00-17:00 新患紹介	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン
17:00 -17:30	申し送り 翌日の予習	申し送り 精神腫瘍科 打ち合わせ 翌日の予習	申し送り 翌日の予習 第2 水曜 18:00-19:00 死生学勉強会	申し送り 翌日の予習	申し送り 翌日の予習	申し送り 翌日の予習 週のまとめ

※ 火曜日以外のいずれか1日は、連携施設における外勤を行う。

※ 週1回程度の平日当直がある。

※ 水曜日の死生学勉強会は、連携施設に所属している専攻医も参加可能

★年間スケジュール

4 月	オリエンテーション(病院全体、精神科)
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加 緩和医療学会参加 MASCC Multinational Association of Supportive Care in Cancer*
7 月	
8 月	日本うつ病学会*
9 月	研修中間報告会 日本サイコオンコロジー学会参加
10 月	
11 月	日本総合病院精神医学会参加
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	研修報告会／研修プログラム評価報告書作成 APOS American Psychooncological Society*

* 任意参加の学会

③ 施設名:埼玉医科大学総合医療センター

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	外来・リエゾン	外来・リエゾン	外来・リエゾン	外来・リエゾン	外来・リエゾン
12:30-13:00	ランチョンセミナー				
13:00-15:00	外来・リエゾン	外来・リエゾン	外来・リエゾン	外来・リエゾン	外来・リエゾン
15:00-16:00	精神科リエゾン チームカンファ レンス	精神科リエゾ ンチームカン ファレンス	精神科リエゾ ンチームカン ファレンス	精神科リエゾ ンチームカン ファレンス	精神科リエゾ ンチームカン ファレンス
16:00-17:00	症例検討会	緩和ケアチー ムカンファレン ス			勉強会・輪読 会
備考	全員集合日				全員集合日

土曜日を研究日とした場合の週間スケジュール。(曜日は相談)

★ 年間スケジュール

	内容
4 月	リエゾン研修・外来研修
5 月	リエゾン研修・外来研修
6 月	リエゾン研修・外来研修、日本精神神経学会
7 月	リエゾン研修・外来研修
8 月	リエゾン研修・外来研修
9 月	リエゾン研修・外来研修
10 月	リエゾン研修・外来研修
11 月	リエゾン研修・外来研修、日本総合病院精神医学会
12 月	リエゾン研修・外来研修
1 月	リエゾン研修・外来研修
2 月	リエゾン研修・外来研修
3 月	リエゾン研修・外来研修
その他	その他、興味ある学会や研究会に参加 埼玉医科大学合同専門医セミナー(仮称)(年数回+随 時) 埼玉精神医学懇話会(年 2 回) 埼玉サイコオンコロジー研究会 埼玉サイコネフロロジー研究会

④ 施設名:埼玉県立精神医療センター

★ 週間スケジュール

週間計画【1. スーパー救急病棟を中心とした基本的研修】

	月	火	水	木	金	土日
午前	8:30～9:00 病棟申し送り 9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診 9:30～11:30 電気けいれん療法	8:30～9:00 病棟申し送り 9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	8:30～9:00 病棟申し送り 9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診 9:30～11:30 電気けいれん療法	8:30～9:00 病棟申し送り 9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診 10:00～ 薬物療法CC※1	8:30～9:00 病棟申し送り 9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診 9:30～11:30 電気けいれん療法	
午後	13:30～14:00 病棟カンファレンス	12:30～13:00 病棟運営会議 13:30～14:00 病棟カンファレンス	13:30～14:00 病棟カンファレンス	13:30～14:00 病棟カンファレンス	13:30～14:00 病棟カンファレンス 16:00～ 新患CC※2	
5時以降	17:00～ 医局会					

・週間計画に記載されていない時間は、病棟・外来業務を行う。

・医局勉強会:隔週金曜日12:30～13:00(症例検討、論文レビュー等)

※1… スーパー救急病棟入院患者の薬物療法の評価

※2… 主にスーパー救急病棟に新規入院した患者のCC

週間計画【2. 依存症病棟を中心とした研修】

		月	火	水	木	金	土日
第1週	午前	酒歴・薬歴発表 または	病棟LIFE※ ¹ 外来アルコールミーティング 13:30～14:00 病棟カンファレンス	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	再飲酒・ 再使用予防トレーニング (CST)	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 17:00～ 医局会	断酒会参加 アルコール家族教室	薬物家族教室 外来LIFE	レクリエーション 16:00～ 依存症CC※ ²		
第2週	午前	酒歴・薬歴発表 または スモールグループミーティング	外来ミーティング	入院患者のための勉強会	ウォーキング 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 14:00～15:00 断酒会紹介 17:00～ 医局会	レクリエーション 外来アルコールミーティング	ダルクメッセージ 薬物家族教室 外来LIFE	ウォーキング反省会 16:00～ 依存症CC		
第3週	午前	酒歴・薬歴発表 または スモールグループミーティング	病棟LIFE 外来ミーティング	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 17:00～ 医局会	断酒会参加 アルコール家族教室 19:00～20:00 NAメッセージ	栄養指導 マックメッセージ 薬物家族教室 外来LIFE	スマイルイベント または レクリエーション 16:00～ 依存症CC		
第4週	午前	酒歴・薬歴発表 または スモールグループミーティング	外来アルコールミーティング	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 14:00～15:00 AA紹介 17:00～ 医局会	レクリエーション アルコール家族教室	マックメッセージ 薬物家族教室 外来LIFE	レクリエーション 16:00～ 依存症CC		
第5週	午前	酒歴・薬歴発表 または スモールグループミーティング	病棟LIFE 外来アルコールミーティング	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 17:00～ 医局会		外来LIFE	レクリエーション 16:00～ 依存症CC		

- ・毎日8:30～9:00 病棟申し送り 9:00～9:15 朝の病棟患者ミーティング 13:30～14:00 病棟カンファレンス
- ・週間計画に記載されていない時間は、病棟・外来業務を行う。
- ・医局勉強会:隔週金曜日12:30～13:00(症例検討、論文レビュー等)
- ・依存症病棟ウォーキングプログラム 月1回

※1… 薬物依存症再発防止プログラム

※2… 主に依存症病棟に入院した患者のCC、動機付け面接ロールプレイ

週間計画【3. 児童・思春期病棟を中心とした研修】

	月	火	水	木	金	土日
午前	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り 10:00～11:30 家族教室	
午後	13:00～13:30 病棟運営会議 13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:45～15:45 男女別グループ活動 16:00～16:30 農作業	14:00～15:30 不登校児のための外来グループ活動 15:30～16:00 患児によるコミュニケーションミーティング(隔週)	13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:45～15:30 病棟ミーティング (集団精神療法)	13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:15～15:15 OTによるレクリエーション	13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:45～15:45 SST 15:30～16:30 グループ活動「鉄道友の会」 15:30～16:30 学校病棟CC※ ¹	
5時以降	17:00～ 医局会					

・週間計画に記載されていない時間は、病棟・外来業務を行う。

・医局勉強会：隔週金曜日12:30～13:00(症例検討、論文レビュー等)

・児童思春期病棟ウォーキングプログラム 月1回

※1… 児童思春期病棟に入院中で院内学級に登校している児童のCC

★ 年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	埼玉県精神神経科医会学術講演会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	埼玉精神医学懇話会参加
8月	埼玉子どものこころ臨床研修会参加
9月	埼玉県精神神経科医会学術講演会参加
10月	
11月	
12月	
1月	埼玉精神医学懇話会参加
2月	全国児童青年精神科医療施設協議会研修会 埼玉県精神神経科医会学術講演会参加
3月	総括的評価

【児童・思春期症例】

- ・外部講師による児童思春期症例検討会 月1回
- ・ADHDの親たちへのペアレントトレーニング/10回1クール、年2クール

【依存症関係】

- ・依存症治療研究部長による集中講義 全6回

【教育・研究入門講座】依存症治療研究部長により、新しい知見・技術の紹介、研究倫理の指導、データ収集法・解析法等統計手法等の教育を適宜行う。

【職員全体研修】医療安全、倫理、危機管理、救命救急処置、静脈血栓塞栓症予防、感染対策、精神保健福祉法と人権、措置入院にかかる法律の理解と実際、行動制限最小化、チームSTEPPS、危険予知トレーニング、無断離院シミュレーション等

⑤ 施設名:埼玉精神神経センター

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	病棟引継 及びカンファレンス	病棟引継 及びカンファレンス	病棟引継 及びカンファレンス	病棟引継 及びカンファレンス	病棟引継 及びカンファレンス
9:00-12:30	病棟措置 外来診察	病棟措置 外来診察	病棟措置 外来診察	病棟措置 外来診察	病棟措置 外来診察
13:30-16:00	病棟診察	病棟診察 クルーズ	SST 病棟カンファレンス	病棟診察 脳波判読会	病棟診察
16:00-17:00			医局カンファレンス 抄読会 症例検討会		
備考					

* 毎朝 8 時 30 分から看護師の病棟引き継ぎに参加し、その日の治療方針・問題点を話し合う。

* 水曜日の病棟カンファレンスでは 1 週間の入院患者紹介と治療方針・問題点などを話し合う。

* 水曜日の医局カンファレンスは 1 週間の全ての外来・入院患者を検討する

* 水曜日の症例検討会(月 1 回)はさいたま市のクリニックに呼びかけて公開で行っている。

★ 年間スケジュール

	内容
4 月	・オリエンテーション　・研修開始　・指導医の指導実績報告提出・ 研修医グラウンドラウンド(毎月開催)
5 月	
6 月	・日本精神神経学会学術総会参加　・日本老年医学学会参加
7 月	・認知症疾患医療センター連携協議会参加、演題発表
8 月	
9 月	
10 月	・日本精神科救急学会参加、演題発表　・日本てんかん学会参加、演題発表
11 月	・地方精神神経学会参加、演題発表
12 月	日本臨床精神神経薬理学会参加、演題発表
1 月	
2 月	
3 月	・研修報告書作成　・研修プログラム評価法報告書作成　・自殺対策医療連携事業検討会議出席

⑥ 施設名:医療法人碧水会汐ヶ崎病院

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	外来診療 または 病棟業務	外来診療 または 病棟業務	外来診療また は 病棟業務 および月1回 院長総回診	外来診療 または 病棟業務	外来診療 または 病棟業務
13:00-15:00	病棟ラウンド と 病棟業務	病棟ラウンド と 病棟業務	病棟ラウンド と 病棟業務	病棟ラウンドと 病棟業務 または 院内研修会 (月2～3回)	病棟ラウンドと 病棟業務 または ケースカンファレン ス
15:00-17:00	病棟業務 または 外来スーパー バイズ	病棟業務 または 外来スーパーバイ ズ	病棟業務 または 外来スーパーバイ ズ	病棟業務 または 外来スーパーハ イズ	病棟業務 または 外来スーパーハ イズ
18:00-20:30				養護教諭との 事例検討会 (月1回)	

★年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	水戸地区精神科臨床研究会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	東京精神医学会参加
8月	日本うつ病学会参加(任意)
9月	
10月	水戸地区精神科臨床研究会参加 日本精神科医学会学術大会参加(任意)／日本児童青年医学会参加(任意)
11月	茨城精神医学会参加・演題発表／東京精神医学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	東京精神医学会参加 日本統合失調症学会参加(任意)

⑦ 施設名:松風荘病院

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30～9:00	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
9:00～12:00	新患予診	病棟業務	外来業務 (再来)	新患予診	病棟業務
13:00～17: 30	病棟業務	新患予診	外来業務 (再来)	診療カンフ ア 病棟業務	病棟業務

★ 年間スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	東京精神医学会参加
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	日本精神科医学会参加
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	日本社会精神医学会(予定)参加

⑧ 施設名: つむぎ診療所

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
AM	外来業務	外来業務	自己学習	病棟業務	病棟業務	
PM	病棟業務 症例検討会 医局会 当直(月 4 回)	デイケア業務	自己学習	ケースカンファレンス 診療会議	病棟業務	

各種委員会への参加: 医療安全管理委員会、人権擁護委員会、院内感染対策委員会等

★ 年間スケジュール

スケジュール	
4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会
7 月	
8 月	夏期研修
9 月	
10 月	日本精神科医学会学術大会
11 月	
12 月	家族会
1 月	
2 月	
3 月	

※ 不定期:保健所における地域活動への参加(子育て親子教室)

⑨ 施設名: 東京都立松沢病院

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
0830-0930	病棟ミーティング 病棟回診	病棟ミーティング 病棟回診	病棟ミーティング 病棟回診	病棟ミーティング 病棟回診	病棟ミーティング 病棟回診
0930-1200	病棟業務	外来初診	病棟業務	病棟業務	病棟業務
1200-1300	クルス [※]				
1330-1700	病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業務	病棟業務	外来再診	病棟業務
	1630-1730 ケースカンファレンス	1700-1730 医局会			1630-1730 外来カンファレンス
1800-2030		集談会・講演 会（月 1 回）			

★ 年間スケジュール

4 月	オリエンテーション 1 年目専攻医研修開始 2・3 年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8 月	
9 月	日本生物学的精神医学会年会（任意）
10 月	1・2・3 年目専攻医研修中間報告書提出 日本臨床精神神経薬理学会年会（任意）
11 月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意）
12 月	
1 月	
2 月	2 年目専攻生東京医師アカデミー研究発表
3 月	1・2・3 年目専攻医研修報告書作成 東京精神医学会学術集会参加（任意）

⑩ 施設名:西熊谷病院

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前 8:30~12:30	病棟業務	外来業務	他部署、他 職種研修	検査部門・ デイケア業 務	修正電気 けいれん 療法	
午後 13:30~17:30	病棟業務	医局会・ 症例検討 会	外来業務	病棟業務	病棟業務	
						月に1回 日・当直

★ 年間スケジュール

4月1週目	オリエンテーション
4月2週目	疾患の概念と病態の理解 診断と治療計画
4月3週目	患者及び家族との面接 精神療法 医の倫理
4月4週目	薬物・身体療法
通算5週目	精神科救急 当直
通算6週目	補助検査法について
通算7週目	法と精神医学 安全管理
通算8週目	心理社会療法 精神科リハビリテーション及び地域精神医療・保健・福祉
6月	日本精神神経学会総会参加
7月～翌3月	病棟・外来での指導・研修 多職場研修 医師会が開催する「感染対策」「医療安全」に関する各研修に参加する

⑪ 施設名:東松山病院

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務		病棟業務
12:30-13:00					
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務 訪問診療に同 行	病棟業務 デイ・ケア業務 地域活動支援センタ ー 業務	自己学習会	外来業務
16:00-17:00					
備考					

★ 年間スケジュール

	内容
4 月	
5 月	病院協会・診療所協会合同研修会
6 月	日本精神神経学会総会参加
7 月	病院協会・診療所協会合同研修会
8 月	
9 月	病院協会・診療所協会合同研修会
10 月	
11 月	
12 月	病院協会・診療所協会合同研修会
1 月	
2 月	病院協会・診療所協会合同研修会
3 月	

⑫ 施設名:岡山大学病院

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:40~9:30	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス
9:30~12:00	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療
	チーム ミーティング	閉鎖病棟 カンファレンス	デイケア	デイケア	チーム ミーティング
13:00~17:30	病棟回診	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟 コミュニティ ミーティング
	症例検討会	リエゾン回診			
	外来 カンファレンス		デイケア or 病棟診療	デイケア or 病棟診療	病棟 カンファレンス
	リエゾン カンファレンス				
	助手勉強会	抄読会			

★ 年間スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	福岡精神科集団会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7 月	日本うつ病学会参加（任意）
8 月	
9 月	福岡精神科集談会参加 日本自殺予防学会（任意）
10 月	
11 月	
12 月	九州精神神経学会参加・発表
1 月	医局年始研究会参加
2 月	日本社会精神医学会（任意）
3 月	医局年度末研究会発表

⑬ 施設名:丸木記念福祉メディカルセンター

★ 週間スケジュール

月	火	水	木	金	土
病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	外勤日	外来研修 ＋デイク アでの診 察
リエゾン業務 ＋病棟カンフ ァランス	3 週 医局会＋精 神科ミーティング 3 週以外 指導医 とのミーティング	病棟カンフ ァランス	病棟業務	外勤日	病棟研修
曜日が変わる 場合あり		曜日が変わ る場合あり		曜日が変わ る場合あり	

★ 年間スケジュール

	内容
4 月	オリエンテーション(業務申し送り)
5 月	(病院主催)福祉フェスタへの参加
6 月	日本精神神経学会への参加
7 月	東京精神医学会への参加、夏季研修期間
8 月	夏季研修期間
9 月	
10 月	院内レクリエーション大会への参加
11 月	東京精神医学会への参加
12 月	(病院内)医療研修会への参加
1 月	
2 月	
3 月	認知症地域医療・介護ネットワーク研修会への参加、東京精神医学会への参加

⑭ 施設名:医療法人弘心会 武蔵の森病院

★ 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:40-9:00		病棟カンファレンス			
9:00-12:00	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務	クリニック業務	院長回診	病棟業務・外来業務
13:30-16:00	病棟業務・外来業務	病棟業務・外来業務	グループホーム研修	初診陪診	治験見学
16:00-18:00	入退院カンファレンス	抄読会	訪問看護実習	各種委員会出席	心理カンファレンス

★ 年間スケジュール

4月:オリエンテーション
5月:
6月:日本精神神経学会学術総会参加
7月:日本睡眠学会参加
8月:
9月:県精神科集団会参加
10月:日本認知・行動療法学会参加 日本児童青年精神医学会参加
11月:地方精神神経学会参加, 演題発表 日本総合病院精神医学会参加
12月:
1月:県精神科集団会参加, 演題発表
2月:
3月:市の心の健康づくりの集い企画参加

⑮ 施設名:山口病院

★ 週間スケジュール

曜 日	時 間	
月曜日	AM9:00 PM13:30 PM14:00	入院診療 医局カンファレンス 入院診療
火曜日	AM9:00 PM14:00	入院診療 外来診療(再来) 入院診療
水曜日	AM9:00 PM14:00	入院診療 外来診療(新患) 入院診療
木曜日	AM9:00 PM14:00	入院診療 外来診療 入院診療
金曜日	AM9:00 PM14:00 PM15:00	入院診療 外来診療(再来) 入院診療 講義

★ 年間スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会(任意) 日本老年医学会(任意)
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	日本統合医療学会(任意)
1 月	
2 月	
3 月	